

冬季アジア大会 国際映像制作

制作技術部

1. はじめに

札幌で27年ぶりに開催された冬季アジア大会の国際映像制作に道内各局が加わり中継制作を行った。HBCはショートトラック、フィギュアスケート、閉会式が行われた真駒内会場のライブフィード制作と、星置会場のアイスホッケーのENG収録を担当した。真駒内のライブフィード制作に関しては、(株)東通の制作、技術協力を受けて、HBCからは技術統括、カメラマン、その他CA4名がホストブロードキャストの技術スタッフとして国際映像制作、配信を行った。

2. 大会概要

開催期間

2017年2月19日(日)～2月26日(日)

開催地

札幌市、帯広市 5競技 11種目

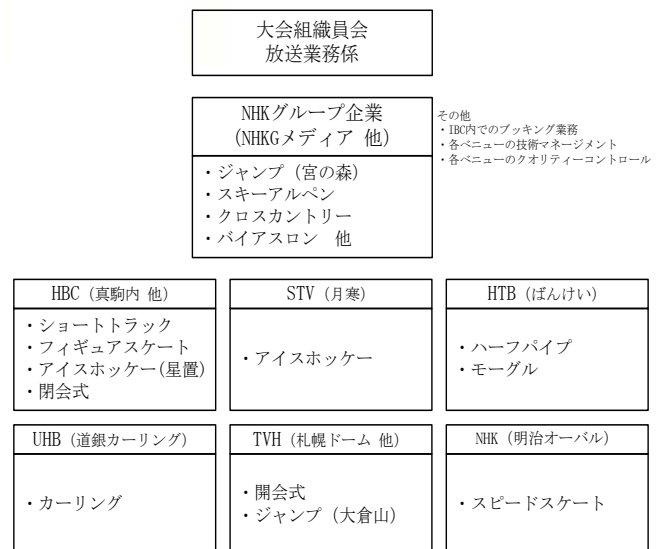
【真駒内会場スケジュール】

- ・2月17日(金)～19日(日)
現場スタンバイ、総合テスト
- ・2月20日(月)～22日(水)
ショートトラック国際映像制作
- ・2月23日(木)～26日(日)
フィギュアスケート国際映像制作
閉会式(26日)…皇太子が来場

※星置のアイスホッケーに関しては
HBCフレックスがENG収録を担当。

3. 国際映像制作組織「SAWBS」

「SAWBS(ソープス)」とは Sapporo Asian Wintergames Broadcasting Servicesの略称組織。道内各局がホストブロードキャストとして参加して、冬季アジア札幌大会の国際映像制作の全般を行った。国内の放送権はNHK(BS-1)が取得して、中継規模としては大会史上最大となった。



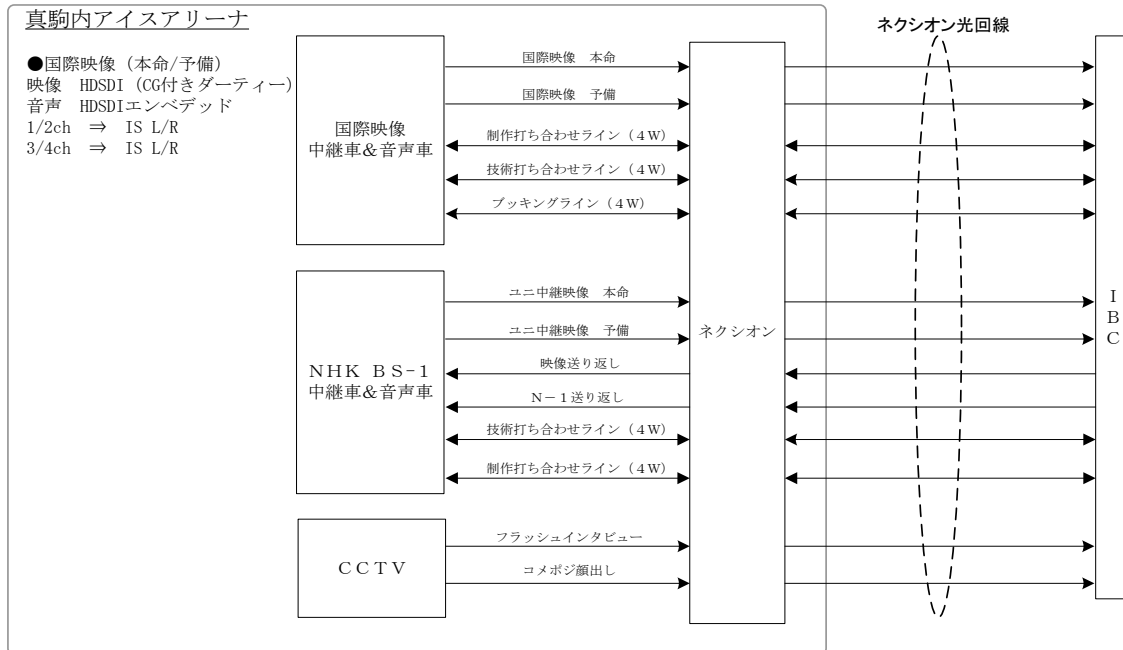
4. ホストブロードキャストサービス

- ①国際中継映像ライブ配信
- ②ライツホルダー映像制作サービス
 - ・コメポジモニターサービス
 - ・フラッシュインタビューゾーン
照明サービス
 - ・プリポストサービス
- ③ハイライト制作
- ④メルト制作
(別角度&ベストショット集)

5. IBC への伝送回線

各ベニューで制作した中継映像は、全てネクシオン光回線を使用して札幌コンベンションセンター内の IBC に集約。中継映像は本命、予備の 2 系統渡し。

その他、IBC 間の連絡線として制作打ち合わせライン、技術打ち合わせライン、ブッキングラインの 3 回線あり。真駒内の場合は NHK BS-1 中継回線、CCTV 入り中用回線も用意されていた。



6. 国際映像制作中継規模

中継車：東通 R-8

音声車：東通 G-1

電源車：80KVA 無停電 (ICC)

CG：テクノネット

EVS：XT-3(8ch)×1、XT-2(6ch)×1

XT-2(6ch)×2

出力：V1~V3=スロー、V4=ハイライト

※カメラ&マイクプランについては別途添付図面を参照

i. ショートトラック

カメラ台数 10CAM

・3倍速CAM(4CAM)

※ゴール時の選手リアクションなど

・小型ハイスピードCAM(PicoCAM)

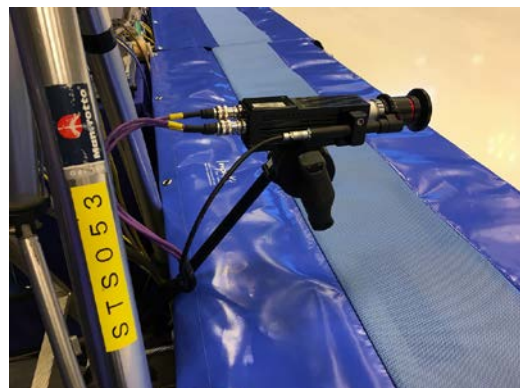
●PicoCAM (Antelope 社)

ゴールインのわずかな着差を表現するためにショートトラックのみゴールライン上に小型のハイスピードカメラを設置した。

(カメラ部)

2/3型CMOSイメージセンサー

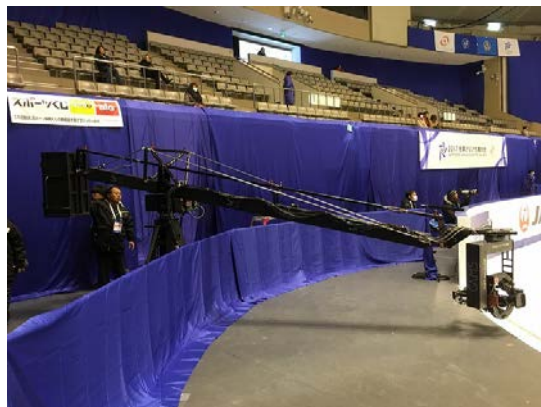
1080p 運用で最大 350fps、720p 運用で最大 520fps。デフリッカー機能を内蔵。



(実際の PicoCAM の映像)



●クレーン CAM (フォクシークレーン)
当初は MAX 8m アームでの運用を試みた
があまりにも会場が狭くて、アーム部
を短縮。5m 程度での運用となった。



(リモコン部)



左…RCP 右…OCP

RCP でカメラ映像の収録&再生が可能。
競技時には必要な部分だけを RCP から
再生して EVS にて収録。カメラの色調
調整、シャッタースピードなどの調整に
関しては OCP 側で制御

ii. フィギュアスケート

カメラ台数：9CAM

・3倍速 CAM(3CAM)

※選手リアクションなど

・クレーン CAM(1CAM)

・NTT マルチアングル配信あり

(カメラリモート部)



●NTT マルチアングル配信

札幌五輪もにらんで NTT ぷららからの
提案で、フィギュアスケートのみネット
によるマルチアングル配信の映像提
供を行った。国際中継映像、2 CAM (競
技引きベース)、3 CAM (選手リアクシ
ョン狙い)、7 CAM (競技リバースア
ングル)の LIVE 映像を視聴者がスマホ画
面上で自由に切り替えて視聴できる
というものであったが、各映像エン
コードの段階で 30 秒程度のディレー
があり、リアルタイム性に関しては
乏しく、どれだけの需要があったかは
疑問。

(マルチアングル画面視聴手順)

- ① スマホから大会公式アプリを DL
- ② 見たいカメラ位置を選択
- ③ 中継映像をクリック
- ④ マルチアングル映像が視聴可能

7. まとめ

技術統括という立場で、初めて国際映像制作に今回携わらせてもらった。大会期間中の映像&音声制作に関しては、(株)東通の多大なる協力によりほぼお任せであったが、組織委員会との事前の打ち合わせや、機材手配やスタッフ調整などに多くの時間と労力を費やした。

大会期間中はスケート連盟の役員とのコミュニケーションを心掛け、円滑に中継制作を進行できるように配慮した。やはりどの現場でも物事を円滑に進めるためには、人間系が重要ということを実感した現場であった。

現在誘致を行っている 2026 年の札幌五輪。もし開催となればこの経験を元に大舞台を目指せるか！？